

I 平成 24 年度事業の成果と課題

7 年目を迎えた食育サポートセンターは、「あすなろ隊」の活動と相まって認知度も上がり、県内一円からの多様な団体のニーズに応えることができた。学生の「あすなろ隊」への登録者数も平成 23 年度の 186 名に対して、平成 24 年度は 220 名と年々増加し、学生の食を通したボランティア活動が定着してきた。

平成 24 年度の活動としては例年に引き続き、健康栄養学科 1 年生を対象に実施している味覚教育、専門教育科目の食育に関する学外実習への取り組み、学生食育ボランティアの派遣、県の委託事業である「食育推進リーダー養成講習会」の実施等に取り組んだ。食育支援活動は、平成 23 年度の 23 回と比較して 24 回、教材の貸出による支援回数は平成 23 年度の 57 回と比較して 59 回であった。共に例年並みの支援活動を行い、地域への食育支援活動に貢献できたと思われる。

本年度の活動の特徴としては、「あすなろ隊」を組織化し、「教材開発グループ」、「食品開発グループ」、「料理・スイーツグループ」、「きずなレポーターグループ」の 4 グループを作り、「あすなろ隊」の主体的な活動を促したことである。「教材開発グループ」は、パソコンを使用した「食育クイズ」を作成し、学園祭とさが食育フェスタにて活用した。「食品開発グループ」は、海苔製造業者からの依頼を受けて「海苔ジャム」の試作を行い、学園祭にてアンケート調査を実施した。「料理・スイーツグループ」は、料理コンテスト等への応募や農業改良普及センターからの依頼で「マコモタケ」を使用したレシピの考案を行い、リーフレットに考案レシピが掲載された。「きずなレポーターグループ」は、昨年度に引き続き佐賀県が募集された事業でもあり、佐賀県内の食と農に関する情報をブログやメールマガジンを通して発信した。また、学園祭では、「さが直売所探検マップ」を展示し、佐賀県の特産品等について情報発信した。あすなろ隊を組織化したことによって、学生自身が自主的に考え、達成感にもつながってきている。

神崎市との取り組みとしては、神崎市及び地元製造業者による地元食材を利用した調理パンの開発への支援を行った。

県からの委託事業である「食育推進リーダー養成講習会」は、「生涯食育」・「生涯健康」をテーマに、食習慣に影響を及ぼす「塩」を取り上げて講習会を開催し、104 名の参加者を得た。参加者の意識改革と「減塩」をテーマとした食育活動の取り組みへの啓発に貢献できた。

実用新案に登録された「はかるくん」は分かりやすい食育教材として県内は勿論、福岡県や静岡県、福島県など他県からの食育活動にも幅広く活用されるようになった。

学生の活動の自己評価では、平成 23 年度と比べ、協働力と実践力の評価が減少したが、企画力、創造力、コミュニケーション力の評価が向上したとの回答が 23 年度よりも多かった。

今後も、企画の段階から学生が積極的に参加し、教員等と協働して内容の立案や媒体作

成等ができる環境づくりを強化していくことが必要と思われる。これによって学生が達成感を得て、人間力や専門的知識等をより向上させることが可能となるようにサポートしていくことが課題と考えられる。

主な成果

- ①「食育サポートセンター」が食育の拠点として定着してきた。
- ②学生食育ボランティア「あすなろ隊」は年々増加傾向にあり、学生のボランティア意識が着実に広がっている。
- ③「あすなろ隊」を組織化したことによって、学生自身の主体的活動が動き始めた。
- ④「さが食育フェスタ 2012」を通して、佐賀県の食育支援に貢献できた。
- ⑤平成 23 年度に引き続き、保育園、小学校、地域での食育活動に参画することで、学生の異世代交流を体験できた。

課題

- ①関係教員の個々の専門性を生かし、あすなろ隊へ助言、指導を行い、食育プログラムの構築について更に積み重ねていく必要がある。
- ②活動を通して、学生の学習意欲に関する行動変容、活動実施に関する事業評価指標を確立させていく必要がある。

平成 24 年度食育サポートセンター事業評価及び課題

事業区分	担当事業	事業評価	課題
推進体制	食育サポート運営委員会の主宰	・委員会には、部会が設置できることから実務レベルの部会が発足し、各事業の企画について円滑に取り組むことができた。また、あすなろ隊の主体性を生かしていくための課題解決法として、学生組織確立への支援を行った。 ・地元神崎市との連携・協定の取り組みにおいて、神崎市及び地元製造業者による地元食材を利用した商品開発への支援を行った。 ・平成 23 年度に引き続き、学長が「食育ネットワークさが」の会長に就任され、構成団体への大学の周知が更に拡大した。	学生組織の強化と自主活動を推進していく必要がある。 神崎市との連携を強化する必要がある。 構成団体との連携強化をする必要がある。
	学内組織への参画	・「あすなろうセンター」へ食育に関する学外活動の情報提供を行い、連携を図ることができた。	学外活動体験に関する連携が引き続き必要である。
	学生食育ボランティアの組織体制	・学生の食育ボランティア「あすなろ隊」は平成 23 年度の 186 名に対し、平成 24 年度は 220 名と増加した。しかし、活動する隊員が固定化している傾向が見受けられる。 ・「あすなろ隊」の主体的な活動を促した	隊員の実質的な活動が定着するように更に支援していく必要がある。

	県の委託事業等の実施	めに教材開発グループ、料理・スイーツグループ、食品開発グループ、きずなレポーターグループの4グループを作った。 ・「食育推進リーダー」を県より受託して7年目を迎えた。生産現場・地域で活動するふるさと先生や食生活改善推進員等、食育推進に関わる関係者の共通理解が得られるとともに、修了者の活動が地域に定着してきている。平成24年度は、「生涯食育」・「生涯健康」に視点をおいた講習会を開催し、参加者の意識改革に繋げることができた。	研修内容や対象者の拡大について検討する必要がある。
専門教育	専門教育科目への食育の導入	・「栄養教育論実習Ⅰ」において、地元保育園・小学校で学外実習を行った。これにより、学生は園児・児童を前にして教材の選定をはじめ、対象者に適した栄養指導の重要性を認識することができた。	
食育プログラム構築のための活動	学園祭での食育体験コーナーの出展	・五感を使った体験コーナーとあすなろ隊の各グループの成果紹介を行い、学生自身の達成感にも繋がった。	学生主体の企画・運営ができるように支援していく必要がある。
	教材の開発及び貸出	・実用新案に登録された「食育カード」は、分かりやすい食育教材として、食育活動に幅広く活用されている。 ・食事と運動のエネルギーバランスを分かりやすく学習するための教材「食育てんびん“はかるくん”（実用新案登録）」については、県内外からの貸出のニーズが高まってきた。 ・「教材開発グループ」によって、パソコンを使用した「食育クイズ」を作成した。 ・各種教材、機器の貸出は、平成23年度と同様57回だった。食育SATシステムに関しては、特別支援学校等の教育現場からの借用も多くなり、食事指導の分かりやすい教材として利用されている。	今後も多様な教材の開発を行う必要がある。 「はかるくん」の商品化を検討する必要がある。
	保育所・学校での活動	・地元保育園や高等学校の食育活動を支援した。活動を通して学生は、食育の大切さ、食事のアドバイスをする喜びを感じることができている。	活動対象の選定、継続教育の検討も行う必要がある。
	地域での活動	・本年度も、多彩な食育イベントに参加する機会が多かった。 ・活動を通じ、地域の人や団体とのつながり、地域活動の実際について体験することができ、また、幅広い世代の対象者とふれあう機会となった。	地元神崎市への支援を強化する必要がある。

	活動の評価	・平成 24 年度も自己評価に関する意識調査を行った。これによると、平成 23 年度とくらべ、協働力と実践力が減少したものの、他の評価については、23 年度よりも高くなっていた。	
食育サポートセンター運営	広報活動	・本学のホームページのトップに「食育サポートセンター」の活動報告を随時掲載し、情報発信を行っている。 (http://www.nisikyu-u.ac.jp/e-shoku) ・平成 23 年度に引き続き、家族だんらん 2012「家族だんらんカレンダー」に本学の教材が掲載され、県内小学校新 1 年生全員に配布された。県内全域に食育サポートセンターの活動の一端を紹介することができた。	今後は更に、学外からのニーズに対応した情報提供の体制の充実を図る必要がある。

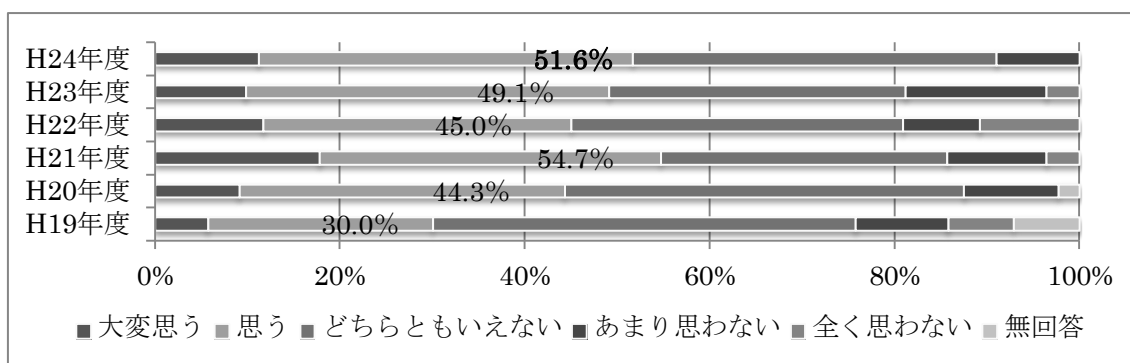
学生食育ボランティア「あすなろ隊」活動者の自己評価結果

○自己評価の方法

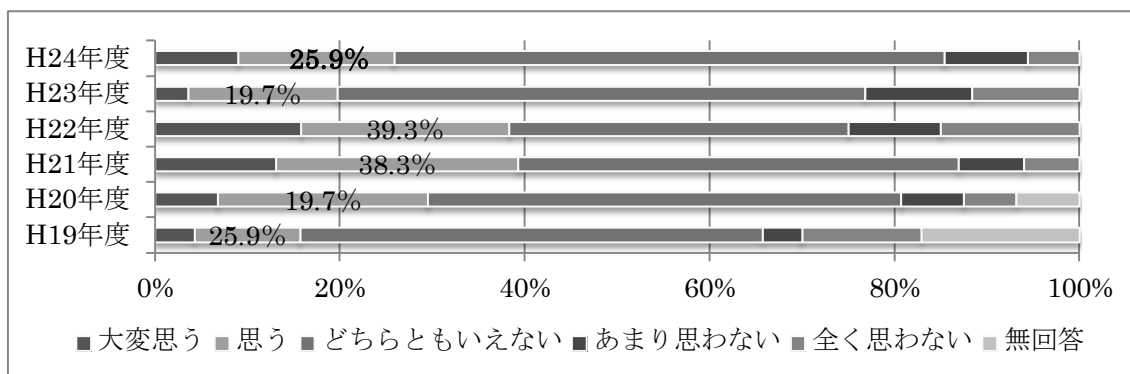
対象：平成 24 年度にボランティアとして食育活動に参加した学生 89 名

方法：企画力、創造力、コミュニケーション力、協働力、実践力の 5 つの項目について自記式により 5 段階で評価

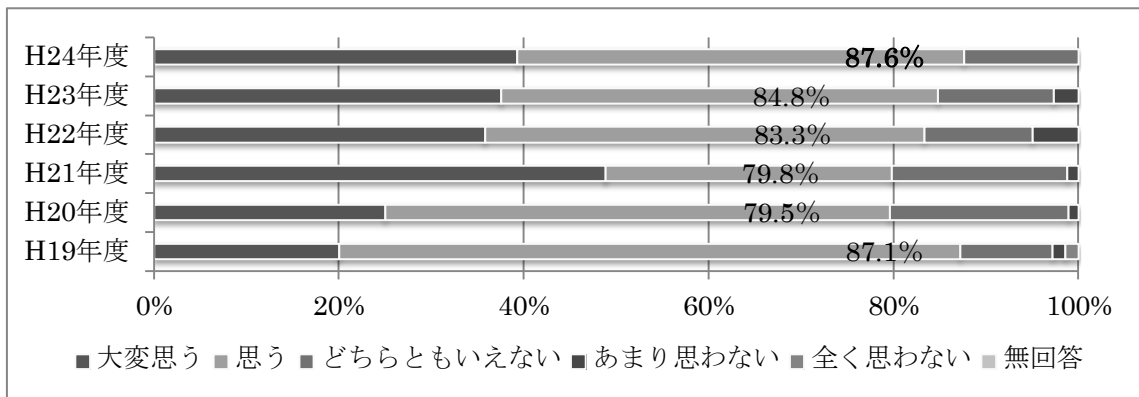
◆企画力



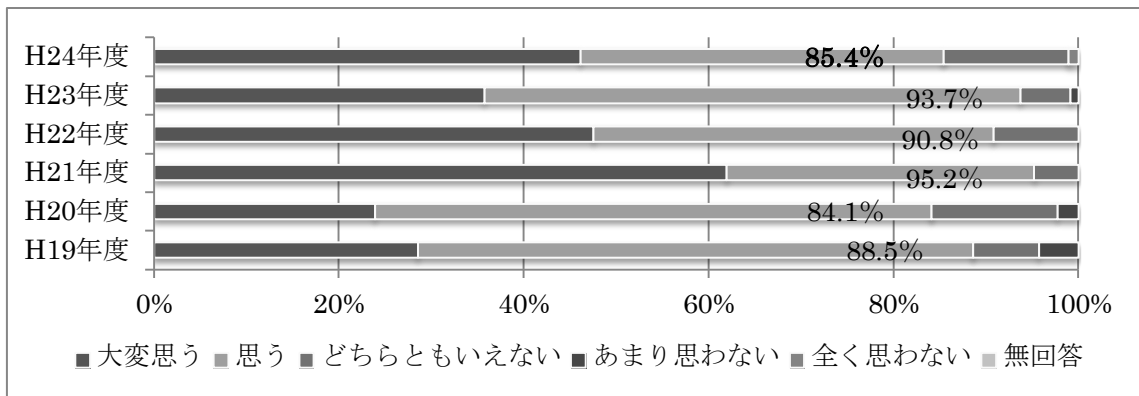
◆創造力



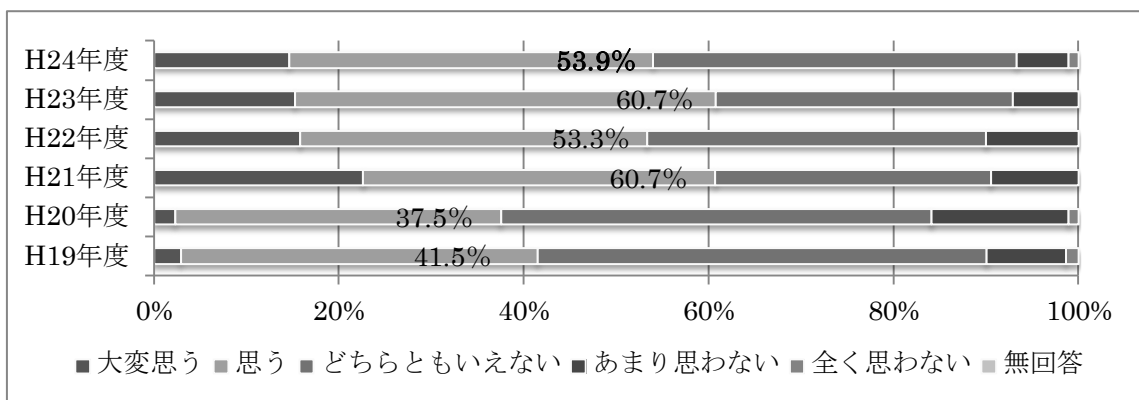
◆コミュニケーション力



◆協働力



◆実践力



Ⅱ 味覚教育と専門教育の実施

1. 味覚教育

味覚は、ヒトの五感の一つであり、将来管理栄養士になった場合に必要な能力の一つともいえる。健康栄養学科では、平成 19 年度から 1 年生を対象として食味テストを行っている。また、この検査は佐賀県の極上海苔「有明海一番海苔」を選定する食味検査の認定試験を兼ねて行っている。「有明海一番海苔」は、県と有明海漁協が平成 19 年度から売り出された極上海苔で、消費者の視点から味を厳選してもらおうと検査員が募集された。食味テストには、塩化ナトリウムやカフェインなどの水溶液 5 種類と無味の水を飲み比べ、甘味、塩味、酸味、苦味、旨味を識別するという味覚テストと、3 種類の海苔を食べ比べて柔らかさの順序をすべて当てるというものである。

平成 19～24 年度の合格者の結果を表 1 に示す。今年度は、109 名受験し、31 名が合格した。合格率は 28.4%となり、昨年度よりも約 10%増加した。この要因についてはわからないが、用いた海苔の差が微妙であったりとしたことも原因と考えられるので、単純に比較はできない。この検査を通して、日頃の味付けを薄味にしようと考え直す学生もあり、味覚の重要性が伝わったと思われる。また、地元佐賀県でとれる本物の海苔を味わうことで、地産地消に繋がたい。

(表 1. 食味テストの結果)

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	合計
受験者(人)	113	114	99	117	110	109	662
合格者(人)	8	13	26	57	21	31	156
合格率(%)	7.1	11.4	26.3	48.7	19.1	28.4	23.6



最高級のり検定員に挑戦
西九州大 132人、味や食感真剣に
神埼市 西九州大で18日、最高級県産の「佐賀海苔有明海一番」を選定する食味検査員の認定試験があった。同大がカリキュラムの一環で毎年取り組んでおり健康栄養学科の1年生132人が、微妙な味覚を試す問題に真剣な表情で挑んだ。うま味や苦味、酸味など基本となる五つの味成分を少しでも述べて。(福本真理)

ただ溶かした水や軟らかさが違ったり3種類を判別する試験。学生たちは、少しずつ飲み比べたり、のりをそっと舌に乗せて食感の違いを感じ取るなど、黙々と繰り返した。入江夏輝さん(19)は「のりは口溶けが違って分かりやすかったけど、味成分は自信がありません」と苦笑いで感想を述べた。

佐賀新聞 2012.7.19

2. 専門教育

〈栄養教育論実習Ⅰにおける小学校・保育所への学外実習〉

目 的 栄養教育論実習Ⅰにおいてライフステージ別の集団栄養教育を学習するが、実際の対象を設定することが難しく、また教育の臨場感にも欠ける。また、「食育」を支える次の世代として子どもたちの食の現状や食育の現場に携わることは非常に大切である。そのことから平成23年度に引き続き、集団栄養教育の内容を「食育」とし、神埼市内のちよだ保育園、神埼保育園、仁比山小学校に協力を頂き、園児・児童を対象とした学外実習を行った。

内 容 1クラスはちよだ保育園、2クラスは神埼保育園の3・4・5歳児を対象とし、グループごとに担当クラスを決定した。3クラスは仁比山小学校1~6年生を対象とし、グループごとに担当クラスを決定した。担当クラスの園児・児童の特性を知るために、ふれあい日を設けた。ふれあい日で園児・児童に接することにより、園児・児童の発達段階、興味関心等を観察した。それをもとに、実習内容を決定し、教育案・媒体を作成し、学内での模擬教育を行った後、実際の教育を行った。

各グループの教育テーマは、以下の通りである。

1クラス	2クラス	3クラス
しっかりかもう	よくかんで食べよう	野菜を残さず食べよう
野菜を食べて元気になろう	いろんな食べ物を知ろう	好き嫌いしないで食べよう
野菜を食べよう	枝豆について知ろう	バランスよく食べよう
うんちについて知ろう	好き嫌いをなくそう	和食の良さについて知ろう！
野菜について知ろう	トマトを大好きになろう	食べることの大切さを知ろう！
朝ごはんを食べよう	うんちについて知ろう	食の命の大切さ

日 時	〈ちよだ保育園〉	平成24年6月1日（金）9:50~10:45	ふれあい日
	1クラス	平成25年2月4日（月）9:50~10:45	発表日
	〈神埼保育園〉	平成24年5月22日（火）14:40~15:30	ふれあい日
	2クラス	平成24年7月3日（火）10:00~10:50	発表日
	〈仁比山小学校〉	平成24年6月1日（金）12:35~13:35	ふれあい日
	3クラス	平成24年7月31日（金）12:50~14:15	発表日

学 生 栄養教育論実習Ⅰを履修した健康栄養学科3年
1クラス35名、2クラス37名、3クラス名37名

引率教員 3名

〈実習の教育的効果〉

普段、学生は園児・児童とふれあう機会が少なく、接する前は、不安や苦手意識が強い学生が多かった。実際にふれあうことにより、対象の特性を知ることができ、苦手意識も払拭されていたことから、異世代とのコミュニケーションの場という点でも意義があったと考える。また、「食育」を幼少期から行うことの必要性について気づけたことも大きな収穫だったと言える。

学内での栄養教育体験に比べ、実際の対象を設定することにより、学生の意欲・達成感につなげることができた。学生の感想の中にも「わかりやすく話すことや興味を引くことの大切さ、園児・児童の理解度を知ることができた」、「園児・児童たちの反応を得ることが出来、栄養教育の楽しさ・難しさに気づけた」、「栄養士の仕事・責任について考えることができた」等があり、学生が真剣に取り組んだことが実際の反応として返ってくることにより、自分自身を省み、改善へとつなげる材料にもなった。今後もこのような活動をしたいとすべての学生が答えていたことから勉学へのやる気を引き出す教育効果があったといえる。

〈今後の課題〉

神崎市との食育連携を図るために、神崎市内にあるちよだ保育園と神崎保育園を実習園として選んだ。また、3クラスは栄養教諭を目指すものが10名程度いることから対象を小学生とし、仁比山小学校を選定した。今年度も現場で使える教材作りをするように指導し、学生も完成度の高い教材を作成した。保育園では園で栽培している野菜の育て方、観察のポイント、食べ方、料理などに興味を持ち、好きになってもらえるような内容や朝食について考える内容を展開し、園側のニーズを取り入れることができた。来年度も来てほしい、恒例行事にしてもらいたいとの声も頂き、好評であった。

前回からの課題として、大学側の一方的な教育内容で、対象園・学校のニーズに応えられていない部分があったので、今回は小学校の担任の先生に対して、事前にアンケートをとり、実施して欲しい内容について確認をし、ニーズに対応できるようにした。しかし、時間が少ない中、教育内容や実施についての対象園・小学校からの評価が十分に行われていないのが課題である。今後、園や学校に負担のない評価の在り方について検討し、次年度につなげていく。

Ⅲ 学生食育ボランティアあすなろ隊

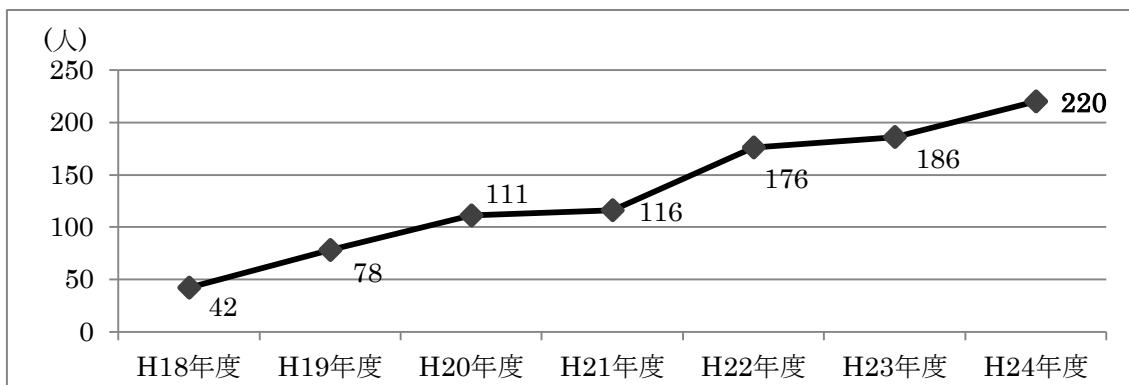
1. 隊員構成

永原学園の教育理念を象徴する言葉『あすなろ（翌檜）』は、学生が自らの可能性を信じ、自らの力によって、その持てる才能を開花させ、将来の大きな目標に向かって突き進む姿勢を意味する。

「学生食育ボランティアあすなろ隊」は、西九州大学に在籍する学生の有志で構成されており、施設や自治体の行事やイベントへ参加し、“あすなろう”の精神で、食の体験活動をサポートしている。

現在、1年生 77 名、2 年生 34 名、3 年生 59 名、4 年生 50 名の計 220 名の有志が活動している。（平成 25 年 3 月現在）

◆あすなろ隊員数の年次推移（平成 18 年度～平成 24 年度）



2. あすなろ憲章

私達あすなろ隊員は、以下の項目を遵守し、県内の保育園、学校、地域における食育推進ボランティア活動を通し、自らの資質・能力を向上させるとともに、子どもを中心とした食育の充実を図り、豊かな人間性や生きる力を身につけさせ、地域の食育活性に取り組むことを誓います。

第一

保育所、幼稚園などで行われる食育活動に可能な限り積極的に参加し、西九州大学生としての誇りを持って活動します。

第二

現場での活動に関しては、幼児や児童の安全を第一に行動するとともに、自身並びに協働する方全員の安全を念頭において活動します。

第三

活動の推進にあたっては、指導教員・関連機関の指導を遵守しながら、自ら積極的に行動します。

第四

幼稚園、学校などの活動現場においては、現場の先生・職員の方々の指導に従い、協調して活動を進めます。

第五

講義で身につけた知識・技術に加えて、食育ボランティア活動を通して企画力・創造力・社会貢献力に更に磨きをかけ、自分の力とします。

IV 平成 24 年度の活動報告

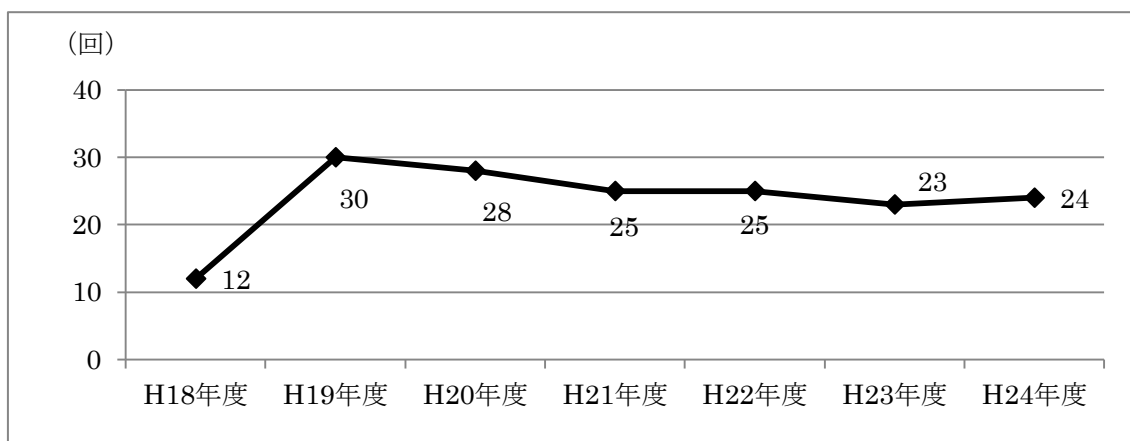
平成 24 年度食育サポートセンター・あすなろ隊活動一覧

回数	活動場所	活動日	行事名	活動者数	あすなろう体験 履修者
1	地域 (18回)	4月22日(日)	小城普茶料理食事に～春	あすなろ隊6名	
2		4月22日(日)	吉野ヶ里町健康福祉フェスタ	あすなろ隊6名	
3		5月13日(日)	ひらまつ病院スマイル健康フェア 2012	あすなろ隊4名	
4		5月20日(日)	神崎市子どもまつり	あすなろ隊3名	健栄1名 社福1名
5		6月2日(土)	あそびフェスタ 2012	あすなろ隊5名	
6		8月2日(木)	食育推進リーダー養成講習会	教職員7名	
7		10月20日(土)	さが私学フェスタ 2012	あすなろ隊4名 教員3名	
8		10月21日(日)	子育て支援イベント ばぶばぶフェスタどん3	あすなろ隊3名	健栄1名
9		10月27日(土)	しろいし食育まつり	あすなろ隊2名	
10		11月17日(土)	小城普茶料理食事に～秋	あすなろ隊4名	健栄1名
11		11月18日(日)	小城的食育まつり	あすなろ隊2名	リハ2名
12		11月18日(日)	さかの食育フェスタ 2012	あすなろ隊5名 教職員6名	
13		12月16日(日)	CSO 共感フェスタ	あすなろ隊5名	健栄1名、社福 1名、リハ3名
14		12月16日(日)	クリスマスメニューに挑戦！子ども 料理教室	あすなろ隊5名	
15		2月11日(祝・月)	道の駅そよ風館での野菜摂取アップ 啓発活動	あすなろ隊1名	
16		2月15日(金)	お茶の作法でふれあい time	あすなろ隊1名	
17		2月24日(日)	多久市健康戦略講演会	あすなろ隊1名	
18		3月2日(土)	健康フェスタ!!佐賀総力祭～市民交流 フェスタ 2013	あすなろ隊1名 教職員3名	
19	教育現場 (3回)	9月12日(水)	神埼保育園でのお茶教室	あすなろ隊3名	社福5名
20		9月20日(木)	食育バイキング講座 in 神埼高等学校	あすなろ隊5名 教職員4名	
21		3月8日(金)	金立特別支援学校への食育支援	あすなろ隊1名 職員1名	
22	本学 (3回)	10月27日(土) ・28日(日)	学園祭(食育体験コーナー)	あすなろ隊32名 教職員10名	健栄2名、社福 2名、リハ2名
23		10月27日(土) ・28日(日)	学園祭(食育〇×クイズ)	あすなろ隊7名 教員1名	健栄1名
24		2月15日(金)	食育講演会～宗像区小中学校母親代 表研修会	あすなろ隊1名 教職員5名	

◆平成 24 年度食育サポートセンター・あすなろ隊活動の県内分布



◆活動回数の年次推移（平成 18 年度～24 年度）



1. 活動報告①（食育推進リーダー養成講習会）

目 的 食育を栄養、調理、農業などの総合的な観点で推進する人材を育成し、関係団体、保育所、幼稚園、学校、地域等に派遣するため、「西九州大学、佐賀県及び佐賀県教育委員会における食育についての連携・協力協定書」第2条第2号に基づき食育推進リーダー養成講習会を実施する。

実施主体 佐賀県及び西九州大学食育サポートセンター

開催日時 平成24年8月2日（木） 13時30分～16時

開催場所 佐賀市立図書館多目的ホール

参加者数 104名
（ヘルスメイト23名、ふるさと先生8名、学校食育担当者18名、市町担当21名、県関係17名、大学関係12名、その他5名）

講習内容 人を育てる食育！ 地域を育てる食育！」

時 間	内 容	場 所
13：30	開会・主催者挨拶（県・大学） くらしの安全安心課 課長 蒲原晃嗣氏 食育サポート運営委員会 委員長 高橋忠夫氏	佐賀市立図書館 多目的ホール
13：40	県の取組について 「平成23年度県民健康・栄養調査の結果報告」 佐賀県健康増進課 副島裕子氏	
14：00	講演 「減塩で生涯食育・生涯健康、そのためには町ぐるみの減塩環境」 講師：日下医院院長、「こだわりのヘルシーグルメがイットレストラン in 呉」プロジェクト代表 日下美穂氏	
15：30	各団体からの行事等紹介	
15：45	閉会	

実施評価

「人を育てる食育！地域を育てる食育！」をテーマに講習会を開催した。

佐賀県の取り組みについては、昨年度実施された「県民健康・栄養調査」の結果報告をしていただいた。全国と佐賀県の栄養摂取の傾向や食生活のデータが比較され、目標値も示されており、食育を推進していく上での貴重な資料として佐賀県民の食生活の実態を知ることができた。

講演では、国の第2次食育推進基本計画の重点課題にあげられている「生涯にわたるライフステージに応じた間断ない食育の推進（＝生涯食育）」と「生活習慣病の予防及び改善につながる食育の推進（＝生涯健康）」の内容に対応し、また、幼少期からの食習慣に影響を及ぼす『塩』について、町ぐるみで「減塩」に取り組まれている広島県呉市の実践例を紹介していただき、今後の取組の参考となった。治療よりも予防が大事、減塩を通して人々が健康になる、まさに食育が目指すそのものである。

これを契機に佐賀県でも「ソルトコンシャス（塩を意識する）」をモットーに「減塩」についての取組が活発になることを期待したい。

◆講習会に関するアンケート結果（抜粋）

「平成23年度県民健康・栄養調査の結果報告について」

大変理解できた 47% 理解できた 52% あまり理解できなかった 1%

日下先生の講演について

大変理解できた 66% 理解できた 34% あまり理解できなかった 0%

講習会に参加して、テーマである「減塩」に対して、何か取組もうと思われましたか

【既に取り組んでいる方 42%】  もっと強化したい 96%
このままで良い 4%

【まだ取り組んでいない方 52%】  ぜひ活動のテーマにしたい 19%
これを契機に考えたい 81%
特に考えていない 0%

【無記入者 5%】

講習会全体の感想

- ・専門的な話が聞けて大変勉強になった。興味深く面白かった。
- ・町全体で減塩に取り組むにあたっての流れや進め方について参考になった。
- ・「減塩＝おいしくない」というイメージがあるが、工夫次第でおいしくできること、食事について再度考え、広く啓発していきたい。

2. 活動報告②（学生食育ボランティアあすなろ隊派遣活動）

1) 小坡普茶料理食事会～春

活動内容：伝統料理普及活動の支援（調理、盛り付け、配膳、接待、後片付け）

活動日時：平成 24 年 4 月 22 日（日）9 時～17 時

場 所：小坡町公民館晴田支館

対 象 者：食事会のお客様（約 60 名）

活動者数：あすなろ隊 6 名

依 頼 先：普茶料理おぎ春香会



《あすなろ隊の感想》

- ・以前から興味を持っていた普茶料理について、たくさんを知ることができた。
- ・どの料理も食材を上手く利用されていた。特に、うなぎの骨をごぼうの繊維で表現するなど、発想がすごいと思った。
- ・食材の活かし方や調理法について大変勉強になった。

2) 吉野ヶ里町健康福祉フェスタ

活動内容：食育推進コーナーへの支援（食育すごろく、魚釣りゲーム、野菜クイズ、食育てんびん“はかるくん”体験）

活動日時：平成 24 年 4 月 22 日（日）9 時 30 分～16 時

場 所：東背振健康福祉センター「きらら館」

対 象 者：子ども～大人（約 160 名）＊出展コーナー来場者数

活動者数：あすなろ隊 6 名

依 頼 先：吉野ヶ里町健康福祉フェスタ実行委員会



《あすなろ隊の感想》

- ・子どもから大人まで楽しく食育体験をしてもらうことができた。
- ・“すごろく”や“魚釣りゲーム”では、「前にも遊んだよ!」と話す子どももいて、食に興味を持ってもらえていることが分かり嬉しかった。
- ・子どもや大人が野菜や魚についてどのくらい知っているのかを知る良い機会となった。

3) ひらまつ病院スマイル健康フェア 2012

活動内容：食事バランス診断の補助

活動日時：平成 24 年 5 月 13 日（日）8 時 30 分～16 時

場 所：ひらまつ病院 VIVO ビレッジ健康村（小城市）

対 象 者：来場者（約 100 名）

活動者数：あすなろ隊 4 名 依頼先：ひらまつ病院 VIVO ビレッジ



《あすなろ隊の感想》

- ・院長先生やスタッフの方達がとても明るく、楽しい雰囲気の中でお手伝いできた。
- ・栄養士の方達と間近に活動ができ、“管理栄養士”の仕事に魅力を感じた。
- ・スタッフの方の来場者に対する説明の仕方や話し方など聞くことができ、大変勉強になった。

4) 神崎市子どもまつり

活動内容：食育体験コーナーでの支援（食育すごろく、魚釣りゲーム、野菜あてクイズ）

活動日時：平成 24 年 5 月 20 日（日）9 時～16 時

場 所：神崎中央公民館・体育館

対 象 者：子ども（約 150 名）

活動者数：あすなろ隊 3 名、あすなろう体験履修者 2 名（健栄 1 名、社福 1 名）

依 頼 先：神崎市子どもまつり実行委員会



《あすなろ隊の感想》

- ・子ども達の多さに圧倒されたが、次第に子ども達と一緒にゲームを楽しめた。
- ・子ども達とふれあう機会がないので、今回の活動はとても貴重で、新鮮な体験となった。「食事の大切さ・感謝する心」を多くの子ども達に発信できた。

5) あそびフェスタ 2012（主催：西九州大学 ESRD サークル）

活動内容：食育体験コーナーでの支援（食育すごろく）

活動日時：平成 24 年 6 月 2 日（土）8 時～14 時

場 所：日の隈講演グラウンド

対 象 者：子ども～高齢者（約 130 名＊担当コーナー体験者）

活動者数：あすなろ隊 5 名



《あすなろ隊の感想》

- ・子ども達が興味を持って「食育すごろく」を体験し、笑顔で帰って行く姿を見ることができ嬉しかった。
- ・たくさんの子ども達や障害を持った方達と接する貴重な体験となった。

6) 神崎保育園でのお茶教室

活動内容：お茶教室時のサポート、お茶クイズの提供

活動日時：平成 24 年 9 月 12 日（水）13 時 30 分～16 時

場 所：神崎保育園

対 象 者：年長児（21 名）

活動者数：あすなろ隊 3 名、あすなろう体験履修者 5 名（社福 5 名）

依 頼 先：NPO 法人活気会食育部会



《あすなろ隊の感想》

- ・子ども達が目をキラキラさせながら積極的に取り組んでいた。
- ・正しいお茶の淹れ方や湯呑の持ち方を伝えていくことは、とても大切なことだと感じた。
- ・子ども達にどのような説明をしたら分かりやすく、また、興味を持ってもらえるのかについて考える良い機会となり、良い体験となった。

7) 食育バイキング講座 in 神埼高等学校

テ ー マ：「食べ物をかしこく選んで食べよう！」

活動日時：平成 24 年 9 月 20 日（木）14 時～16 時

場 所：佐賀県立神埼高等学校

対 象 者：高校 1 年生（約 140 名）

活動者数：教職員 4 名、あすなろ隊 5 名

依 頼 先：佐賀県立神埼高等学校



《あすなろ隊の感想》

- ・本物そっくりのフードモデルに興味津々の生徒が多く、楽しんで講座を受けてくれた。
- ・クラスによって個性があり、食事診断の星の数を多くしようとする姿が良かった。
- ・高校生が対象の活動は初めてで、話し方や対応の仕方を学ぶことができた。

8) さが私学フェスタ 2012

活動内容：食育体験コーナー（食事バランス診断、食育てんびん“はかるくん”体験）

活動日時：平成 24 年 10 月 20 日（土）10 時～16 時

場 所：佐賀市文化会館

対 象 者：来場者

活動者数：教員 3 名、あすなろ隊 4 名



《あすなろ隊の感想》

- ・幅広い年代の人達と交流ができ、自分にプラスになる良い体験ができた。
- ・知識をもっと身に付けて、人に説明ができるように実践力を伸ばしていきたい。
- ・普段食べている食事のバランスを知りたいと体験される方が多く、体験された方々の健康意識の高さに驚いた。

9) 子育て支援イベント ばぶばぶフェスタどん3

活動内容：食育体験コーナーでの支援（食育すごろく、触ってみよう、嗅いでみよう）

活動日時：平成 24 年 10 月 21 日（日）10 時～16 時

場 所：佐賀市どん3の森広場

対 象 者：子どもとその保護者

活動者数：あすなろ隊 3 名、あすなろう体験履修者 1 名（健栄 1 名）

依 頼 先：佐賀新聞社



《あすなろ隊の感想》

- ・食育すごろくやクイズに子ども達が興味を持って楽しそうに体験している姿を見ることができ、自分自身も楽しむことができた。
- ・子ども達や保護者の方達とうまくコミュニケーションもとることができ、良い体験活動ができた。

10) しろいし食育まつり

活動内容：食育体験コーナーでの支援（食育輪投げ、食育てんびん“はかるくん”）

活動日時：平成24年10月27日（土）10時～16時

場 所：福富ゆうあい館（白石町）

対 象 者：子ども

活動者数：あすなろ隊2名

依 頼 先：白石町役場保健福祉課



《あすなろ隊の感想》

- ・活動を通して、人との接し方を勉強することができた。
- ・地域を活性化させるためには、若い世代の力が必要であることを実感した。

11) 学園祭（食育〇×クイズ 主催：健康栄養学科）

活動内容：クイズ作成、会場準備等

活動日時：平成24年10月28日（日）13時～15時

場 所：西九州大学体育館

参 加 者：25名

活動者数：教員1名、あすなろ隊7名、あすなろう体験履修者1名（健栄1名）



12) 小城普茶料理食事会～秋

活動内容：伝統料理普及活動の支援（調理、盛り付け、配膳、接待、後片付け）

活動日時：平成24年11月17日（土）9時～16時

場 所：小城町公民館晴田支館

対 象 者：食事会のお客様（約60名）

活動者数：あすなろ隊4名、あすなろう体験履修者1名（健栄1名）

依 頼 先：普茶料理おぎ春香会



《あすなろ隊の感想》

- ・調理、盛り付け、配膳、接待と、一時も気が抜けず大変だったが、食事会に見えられたお客様の喜ばれた様子がうかがえてとても嬉しかった。
- ・「おもてなし」について学ぶことができた。
- ・事前準備（調理内容や材料などについて）が十分でなかったため、お客様に詳しい説明ができなかった。次回参加する時は、普茶料理についてはもちろんだが、下準備の段階から参加したいと思う。

1 3) 小城の食育まつり

活動内容：食育体験コーナーでの支援（食事バランス診断補助、食育すごろく、魚釣りゲーム、食育てんびん“はかるくん”体験）

活動日時：平成 24 年 11 月 18 日（日）9 時～14 時

場 所：芦刈保健福祉センター「ひまわり」

対 象 者：子ども～大人（約 300 名）

活動者数：あすなろ隊 2 名、あすなろう体験履修者 2 名（リハ 2 名）

依 頼 先：小城市役所健康増進課



《あすなろ隊の感想》

- ・子ども達に、分かりやすく説明するのが難しかった。
- ・子ども達も多く、私達も子ども達と一緒に食育ゲームを楽しむことができた。
- ・地域の方とたくさんふれあうことができた。また、管理栄養士の先生方ともお話しすることができ、とても勉強になった。

1 4) さが食育フェスタ 2012

活動内容：食育体験ひろばでの支援（食事のバランス診断、五感を使ったクイズ、食育てんびん“はかるくん”体験など）

活動日時：平成 24 年 11 月 18 日（日）10 時～16 時

場 所：武雄温泉通り一帯（西九州大学出展場所：花月旅館 1 F ロビー）

来場者数：約 200 名（大学出展コーナー）

活動者数：教職員 6 名、あすなろ隊 5 名



《あすなろ隊の感想》

- ・地域の子どもからお年寄りの方と食育を通してふれあうことができ、とても良い経験になった。もっと食の知識を身に付けて、地域に貢献していきたいと感じた。
- ・声かけやヒントの出し方など、自分自身に知識が身に付いていないことに気づき、今後の課題を見つけることができた。

1 5) CSO 共感フェスタ

活動内容：食で五感にチャレンジ

活動日時：平成 24 年 12 月 16 日（日）8 時～17 時

場 所：メートプラザ佐賀

対 象 者：子ども（約 20 名）

活動者数：あすなろ隊 5 名、あすなろう体験履修者 5 名（健栄 1 名、社福 1 名、リハ 3 名）



《あすなろ隊の感想》

- ・呼び込みが足らず、体験者があまり来なかったことが残念だった。
- ・子ども達とふれあうことができて楽しかった。
- ・他の学校（大学、短大）の学生さん達と交流もできて良い経験となった。
- ・学年が違う活動者とも協力して進めることができた。

16) クリスマスメニューに挑戦！子ども料理教室

活動内容：材料の準備、調理実習時のサポート、後片付け

活動日時：平成 24 年 12 月 16 日（日）8 時 30 分～14 時

場 所：アバンセ（調理実習室）

対 象 者：小学 1 年生～3 年生（19 名）

活動者数：あすなろ隊 5 名

依 頼 先：佐賀県立男女共同参画センター



《あすなろ隊の感想》

- ・子ども達と一緒に料理することはとても大変だったが、子ども達は素直で、たくさんの笑顔にふれることができて良かった。
- ・子ども達の熱心な目と何でもやろうとする意欲が教えていてとても嬉しかった。
- ・この料理教室をきっかけに、子ども達がお母さん達の料理のお手伝いをしたり、食に興味を持ってもらえると嬉しい。

17) 道の駅大和そよ風館での野菜摂取アップ啓発活動

活動内容：野菜摂取アップの啓発（規格外野菜を有効活用した野菜スープの試飲・調査）

活動日時：平成 25 年 2 月 11 日（祝・月）

場 所：道の駅大和そよ風館（佐賀市大和町）

対 象 者：約 100 名

活動者数：教員 4 名、あすなろ隊 2 名



《あすなろ隊の感想》

- ・どのタイミングでどのように呼び掛け、説明をすればよいのか戸惑いもあったが、先生方を見て学び、徐々に呼び掛けることができた。
- ・多くの方が「ベジさが」に興味を持ち、試飲をしてもらい、「おいしい」「飲みやすい」との声も聞くことができて嬉しかった。
- ・直売所に足を運ばれる方がとても多いことを直に感じた。

18) 食育講演会～宗像区小中学校母親代表研修会

テ ー マ：家族みんなで 楽しく食育

活動日時：平成 25 年 2 月 15 日（金）10 時 45 分～12 時 45 分

場 所：西九州大学大会議室

対 象 者：宗像市小中学校母親部会代表者（20 名）

活動者数：教職員 5 名、あすなろ隊 1 名

依 頼 先：宗像区母親部会



《あすなろ隊の感想》

- ・講座の中に様々な教材が取り入れてあり、どの教材をどのような話の後でどのように使用するのかなど、講座の進め方について学ぶことができた。
- ・フードランプは、食事のバランスについて楽しく学べる教材で、受講者の方に好評で、ランプゲームは大変盛り上がった。

19) お茶の作法でふれあい time

活動内容：会場セッティング、呈茶等の補助、後片付け

活動日時：平成 25 年 2 月 15 日（金）9 時～12 時

場 所：勸興公民館（佐賀市）

対 象 者：小学 3 年生名 52 名、高齢者 35 名

活動者数：あすなろ隊 1 名

依 頼 先：NPO 法人活気会食育部会



《あすなろ隊の感想》

- ・高齢者や小学生とふれあいながら楽しくお茶を淹れることができた。
- ・活動を通して、地域交流や異世代交流の大切さを感じた。
- ・お茶の淹れ方や効力、歴史などについても学ぶことができ、有意義な時間を過ごせた。

20) 多久市健康戦略講演会

活動内容：食育体験コーナーでの支援

活動日時：平成 25 年 2 月 24 日（日）9 時～13 時

場 所：多久市母子健康センター

対 象 者：多久市民約 100 名

活動者数：あすなろ隊 1 名

依 頼 先：多久市役所健康増進課



《あすなろ隊の感想》

- ・食事診断の結果を見て、日々の食生活を見直そうとしている方が多く、そのような行動変容の様子を実際に見ることができ、助言や指導の大切さを改めて学ぶことができた。
- ・このようなイベントを行うことで、住民の病気への理解や予防、早期発見へとつながっていくのだと感じた。

21) 健康フェスタ!!佐賀総力祭～市民交流フェスタ佐賀 2013

活動内容：食事バランス診断

活動日時：平成 25 年 3 月 2 日（土）13 時～16 時

場 所：市村記念体育館

対 象 者：中高齢者約 60 名（＊食事バランス診断体験者数）

活動者数：教職員 3 名、あすなろ隊 1 名

依 頼 先：NPO 法人スポーツフォアオール



《あすなろ隊の感想》

- ・来場者の方に食事のことについて質問されたが、上手く答えることができず、勉強不足を痛感した。
- ・食事バランス診断を体験された方の多くが、塩分摂取量が高い傾向にあり、驚いた。
- ・フロアイベントにも参加でき、体を動かす楽しさや心地良さを感じた。

2 2) 金立特別支援学校への食育支援

活動内容：卒業講話（食生活）の中での支援

活動日時：平成 25 年 3 月 8 日（金）13 時 30 分～14 時 15 分

場 所：佐賀県立金立特別支援学校

対 象：高等部 3 年生（4 名）

活動者数：あすなろ隊 1 名

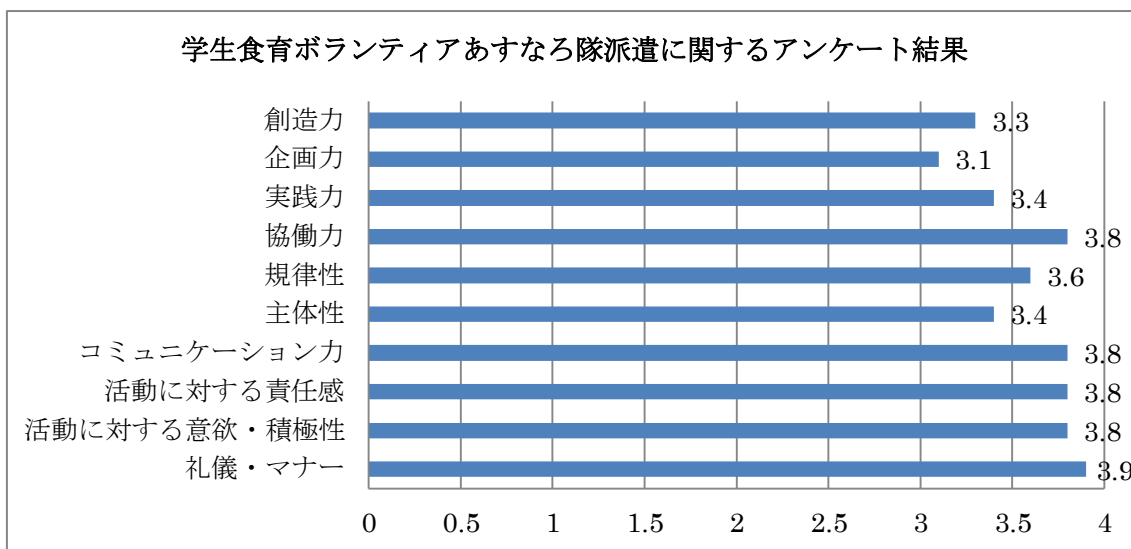
依 頼 先：佐賀県立金立特別支援学校



《あすなろ隊の感想》

- ・栄養教諭の先生の授業の進め方や話し方、教材の使い方等を実際に見ることができ、大変勉強になった。
- ・生徒達が達成感や満足感を得ることができるように展開されており、生徒達の理解度が高まったことが目に見えて分かった。

◆◇◆学生食育ボランティアあすなろ隊派遣に関する派遣先からの評価◆◇◆



(評価方法)

対象：平成 24 年度学生ボランティアあすなろ隊派遣先 9 団体

方法：④十分に備えている ③ある程度備えている ②あまり備えていない ①全く備えていない

派遣先からのコメント

- ・利用される方々に積極的に話しかけられる姿、機械の不具合など全般に一生懸命取り組んでいただき、大変心強く感じました。
- ・学生のうちに多方面での経験ができるよう、今後の活躍に期待しています。
- ・学生さんの行動力がとてもありがたいです。
- ・当初の計画が変更になりましたが、臨機応変に対応していただき助かりました。
- ・子ども達へのサポートは、とても大変なことです、優しく対応していただきました。
- ・片付けや器具等のチェック作業まできちんとしていただきました。

3. 活動報告③（学園祭）

活動日時：平成 24 年 10 月 27 日（土）～28 日（日） 10 時～16 時

場 所：西九州大学コミュニティホール

活動内容：食育体験コーナー

・五感にトライ ・試食コーナー ・展示コーナー

来場者数：約 200 名（食育体験コーナー来場者）

活動者数：あすなろ隊 32 名、あすなろう体験履修者 6 名（健栄 2 名、社福 2 名、リハ 2 名）

食育サポート運営委員会作業部会の先生方 10 名



（パンフレット掲載チラシ）



（食育体験コーナーの様子）

《あすなろ隊の感想》

- ・準備はものすごく大変だったが、何とか形になって良かった。
- ・子ども達から高齢者の方まで幅広い年齢層の方達とコミュニケーションがとれて良かった。
- ・参加者の方へどのように説明をすればうまく伝わるのか、今後の課題となりました。
- ・たくさんの人とふれあうことができて楽しかった。
- ・他の学年の隊員とも協力して進めていくことができた。
- ・実際に活動をして、「もっとこうすべきだった」という点もあり、今後の活動につなげていきたい。

4. 活動報告④（学生組織の各グループの活動）

	教材開発グループ	料理・スイーツグループ	食品開発グループ	きずなレポーターグループ
メンバー数	5名	28名	12名	5名
取組・成果	・パソコンを用いた食育クイズを作成した。 ・食品学や食品衛生、更には地域の食習慣などについて、楽しく学習できる教材を開発した。 ・学園祭（食育体験コーナー）、さが食育フェスタにて使用した。  Q1. 畑のお肉と呼ばれている食べ物は何でしょうか？ ①大豆(だいず) ②枝豆(えだまめ) ③グリーンピース ④じゃがいも ⑤小豆(あずき) (食育クイズ)	・「マコモタケ」を使用したレシピの考案を行った。主菜、副菜、デザートなど14品を作成し、その中の5品が「おすすめレシピ集」として三神農業改良普及センターでリーフレットを作成された。 ・「白石ご当地コンテスト」に5名が応募し、その中の1作品（れんこんフロランタン）が一次審査を通過した。 ・学園祭で、「マコモタケ」料理の展示と「れんこんフロランタン」の試食を実施し、来場者に紹介した。	・海苔の消費拡大を目的として、若い人にも好まれる海苔加工品の開発に取り組んだ。 ・グループメンバーにアイデアを出してもらい試作をおこなった。 ・海苔ジャムの試作を行い、学園祭にて来場者に試食してもらいアンケートを実施した。概ね好評で、中には買って帰りたいとの申し出もあった。  (海苔ジャム)	・県事業への協力 ・県内の農産物直売所、県産農産物を使ったメニューや加工品など、食と農に関する情報を発信した。（県ホームページ「きずなのひろば」のブログへの書き込み） ・農業生産や加工の現場などへ出向き、新たな発見や生産者の思いなどをレポートした。（県メールマガジン「がばい☆きずな」への原稿提供） ・学園祭で、「さが直売所探検マップ」を展示し、給食施設等での食材となる佐賀県の特産品についての情報発信ができた。
課題	更に、対象者やイベントの内容に合わせた食に関するクイズを作成し、内容の充実を図っていく。	・今後は、レシピ集を作成し、栄養成分値の記載を検討する。 ・活動回数を増やすことを検討する。	更に、海苔ジャムを改良していく必要がある。また、他の加工品についても検討していく必要がある。	更に、佐賀県産の食材や加工品等の給食等への活用についての情報発信をしていく。

◆「マコモタケ」レシピリーフレット



◆きずなレポーターが作成した学園祭時に配布したパンフレット



◆きずなレポーターメールマガジン掲載

レポーター名	訪問先	掲載日	掲載号	アドレス
中村朱花	マルヤスりんご園	2012.9.18	第131号	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2012/09/_131.php
牟田有紀子	大豆工房いさき屋	2012.9.3	第130号	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2012/09/_130.php
永尾太人	武雄地域鳥獣食肉加工センターやまんくじら	2012.11.15	第135号	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2012/11_135.php
	武雄市山内町 加工所・神六園	2013.2.15	第141号	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2013/02/_141.php
比嘉政成	やさい道場 百匠飯 吉野ヶ里あいちゃん農園	2012.10.15	第133号	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2012/10/_133.php
藤崎翔平	JA さが畜産センター	2012.8.1	第128号	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2012/08/_128.php

今どき大学生

西九州大学の食育サポートセンターは、幼児期から高齢者までの「生涯食育」を目指しています。学生の食育ボランティア「あすなろ隊」が、独自のプログラムを利用し、効果的な支援活動を行っています。

あすなろ隊の名前は、「明日はヒノキになろう」という理念が基になっており、学生216人が登録。健康栄養学科3年の牟田有紀子さん、大坪佐登子さん、4年の

「生涯食育」をサポート

橋村里美さん、下城実駒さんらは学校やイベント会場に出向き、ゲームなどを通じて大学で学んだ知識を伝えています。

活動では「出会い、ふれあい、学びあい!」を大切にしています。多くの人と会話を交わす中で、教えるだけでなく、学ぶことも多いといいます。

あすなろ隊の派遣や、大学オリジナルの教材の貸し出しに関する問い合わせは

「あすなろ隊」のメンバーと教員のみなさん

食育サポートセンター、電話0952 (37) 9223へ。
(田中みゆき＝佐賀市)

佐賀新聞 2013.1.9

5. 神崎市との取り組み

神崎市及び地元製造業者（梅の花）による地元食材を利用した調理パン開発への支援。

商品名：『そいそい』

佐賀県産のアスパラガスと玉ねぎを豆乳ソースで絡め、豆乳パンで包みこんだパン。

脊振山の麓・城原川のほとり
梅の花 神埼村

昔ながらの古民家に昭和のレトロ感たっぷり。

出来立てパン工房
あさひパン
〒860-0371 神崎市神埼町城原3571-1
TEL:0952-55-8140

3月中旬
発売予定!

体にやさしい豆乳と特産品を使ったパン
そいそい 160円

梅の花 神埼村
あさひパン
店長 薄 克次郎さん
湯葉と豆腐の店「梅の花」の豆乳と神崎の特産である大豆・アスパラを使って豆乳パンを作りました。その他コーンとベーコン、佐賀県特産のたまねぎを使用しています。
「そいそい」の名前の由来は大豆「英語:SOY(そい)」を生地とホワイトソースの2か所に使用しているからです。
出来立てをお召し上がりください。

西九州大学
神崎市

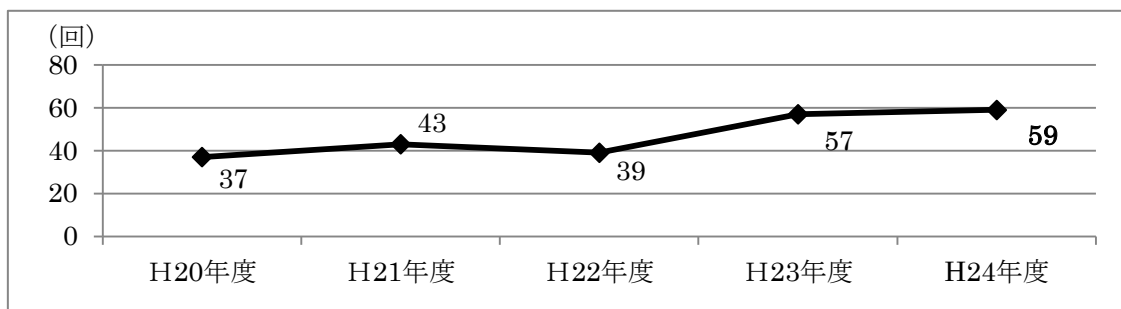
「そいそい」は産学官での取り組みの一つです。
神崎市のめぐみ検討委員会…
産官学で地域の逸品づくりに取り組んでいます。

豆乳と野菜のヘルシーパン
できました!!

生活情報誌月刊ぶらざ佐賀 平成 25 年 3 月 1 日発行

6. 教材の貸出状況

◆教材貸出回数の年次推移（平成 20 年度～平成 24 年度）



◆食育 SAT システム（貸出回数 21 回）

貸出先	利用目的	貸出回数
やよいがおか鹿毛病院	糖尿病教室、病院イベント（子どもお仕事探検隊）	2 回
ひらまつ病院	糖尿病教室、病院イベント（健康フェア）	2 回
佐賀整肢学園・かんざき清流苑	神埼市介護予防事業	2 回
介護老人福祉施設なごみ荘	佐賀市委託事業	1 回
佐賀県立金立特別支援学校	授業	2 回
佐賀県立唐津特別支援学校	食育授業	1 回
佐賀県立伊万里特別支援学校	食育授業	1 回
佐賀県立伊万里高等学校	文化祭	1 回
佐賀県立盲学校	栄養講話	1 回
小城市役所	栄養指導（夜間ヘルスアップ教室）、イベント（食育まつり）	2 回
多久市役所	イベント（多久市健康戦略講演会）	1 回
神埼市保健センター	食育セミナー、食育研修	2 回
基山町保健センター	料理教室	2 回
福岡県栄養士会筑後支部	イベント（柳川山門医師会市民公開講座）	1 回

◆食育てんびん“はかるくん”（貸出回数 16 回）

貸出先	利用目的	貸出回数
やよいがおか鹿毛病院	糖尿病教室、病院イベント（子どもお仕事探検隊）	3 回
ひらまつ病院	イベント（健康フェア）	1 回
社会保険浦之崎病院	イベント	1 回
特別養護老人ホームきらく荘	高齢者に向けたレクリエーション	1 回
佐賀県立伊万里特別支援学校	食育授業	1 回
小城市役所	イベント（食育まつり）	1 回
多久市役所	イベント（多久市健康戦略講演会）	1 回
白石町役場	イベント（食育まつり）	1 回
佐賀県栄養士会鳥栖支部	糖尿病講座	1 回
佐賀県くらしの安全安心課	第 7 回食育推進全国大会出展	1 回
株式会社ヨシケイ	食育指導	1 回
福岡県栄養士会筑後支部	イベント（柳川山門医師会市民公開講座）	1 回
東伊豆町保健福祉センター（静岡県）	イベント（健康福祉ふれあい広場）	1 回
只見町学校給食センター（福島県）	小中学生への食育指導、保健サポート事業	1 回

◆その他の教材（貸出回数 22 回）

貸出教材名	貸出先	利用目的	貸出回数
食育すごろく	やよいがおか鹿毛病院	病院イベント（子どもお仕事探検）	1 回
	小城市役所	イベント（食育まつり）	1 回
	太良町役場	夏休み子どもクッキング	1 回
	株式会社アパナビ	イベント	1 回
	大学コンソーシアム佐賀	イベント	1 回
食育輪投げ	太良町役場	夏休み子どもクッキング	1 回
	白石町役場	イベント（食育まつり）	1 回
	玄海町食生活改善推進員協議会	保育所の食育指導	1 回
手洗い検査器	特別養護老人ホームこすもす苑	職員研修会（食中毒）	1 回
	特別養護老人ホームきらく荘	職員研修会（食中毒）	1 回
	指定介護老人福祉施設ロザリオの園	衛生管理研修会（食中毒）	1 回
野菜タペストリー	佐賀県くらしの安全安心課	第 7 回食育推進全国大会出展	1 回
	玄海町食生活改善推進員協議会	保育所の食育指導	1 回
魚釣りゲーム	小城市役所	イベント（食育まつり）	1 回
	社会保険浦之崎病院	イベント	1 回
	株式会社ヨシケイ佐賀	食育指導	1 回
虫歯予防紙芝居	太良町役場	夏休み子どもクッキング	1 回
消化器模型	太良町役場	夏休み子どもクッキング	1 回
ハテナボックス	多久市役所	イベント（多久市健康戦略講演会）	1 回
	大学コンソーシアム佐賀	イベント	1 回
聞いてみよう	多久市役所	イベント（多久市健康戦略講演会）	1 回
フードランプ	基山町保健センター	事業検討会	1 回

◎利用者からの感想

食育 SAT システム

- ・日頃の食生活の見直しに役だった。
- ・食事のバランスについての理解を深めてもらうことができた。
- ・紙面上ではなく、実際にサンプルがあることでイメージがしやすく、分かりやすい。

食育てんびん “はかるくん”

- ・子どもから大人まで興味を持って体験してもらうことができた。
- ・「こんなに動かなくてはいけないのか！」と驚かれる声が多かったが、食事と運動の関係を理解してもらう良い機会となった。

その他の教材

- ・手作りで使いやすく、対象者が多くなっても対応でき、皆で盛り上がる事ができた。
- ・食育すごろくや輪投げを通して、食事の形態やマナーなどを知る機会となっている。
- ・手洗い検査器を通して、手洗いの重要性の認識が高まった。